

世界の海から 阿南をPR



プロサーファー
武知 実波さん (19歳・桑野町)

阿南の海に 恩返しをしたい

武知さんがサーフィン始めたのは小学4年の頃。サーフィンを愛する家族に囲まれて育ち、多くのプロサーファーを育ててきた父、和一さん(59歳)に手ほどきを受けて覚えた。「上級者のライディングに憧れて、競技サーフィンをやろうと決めました」。週末になると季節を問わず海に出て、練習を重ねた。「要領が悪くて人一倍時間がかかるんです。」とはにかみながらも、「納得がいくまでやらないと気が済まない性格で。」と、負けず嫌いな一面をのぞかせる。

どつぱりとサーフィンにつかっただけ生活を送りながらも、学生としての本分はおろそかにしない。文武両道を掲げ、何事にも努力を怠らない姿勢を貫いてきた。そんな姿をいつもそばで見守ってきた和一さんは、「プロとしてはまだまだ。でも、大学生になって練習量が倍増した分、伸び



サーフィン歴10年。昨年度の国内ランキングは6位、現在の世界ランキングは56位。めざすは世界のトップサーファー。



代はあると思う。世界のトップサーファーの中心は20代前半。これからの2年余りでどれだけ成長できるかがポイントだ。」と期待を寄せている。武知さんにとってサーフィンがもたらす幸せは、自然を肌で感じながら波に乗る以外にもある。それが、大学で知り合った人とのつながり。自ら立ちあげたサーフィンクラブで、初心者や留学生とともに和気あいあいとサーフィンを楽しんでいる。「卒業するまでに正式な部に昇格させるために、海岸清掃などボランティア活動にも積極的に取り組んでいきます。」もちろん、大好きな阿南の海も紹介している。さまざまなシーンでプロとしての活動の幅を広げる武知さん。「サーフィンに打ち込める環境を支えてくれる家族や先生、友人の励ましには本当に感謝しています。」と周りへの気配りも忘れない。

3月29日、記念すべき第1号の委嘱式、武知さんは白いスーツ姿に松葉杖をついて現れた。試合中にサーフボードが足に当たって負傷したのだという。「ちよつと足に突き刺さっちゃって…。でも大丈夫です」。気遣う岩浅市長から委嘱状が手渡さ



辰巳ビーチクリーン2013



委嘱式の後、抱負を語る武知さん。けがのダメージを感じさせない明るい笑顔で周囲を和ませた。

れると、表情はパツと明るくなった。「県外や海外に出ることで郷土愛をいっそう強くしました。今の私があるのは阿南の海のおかげ。恩返しする気持ちで頑張りたい。」と、真つすぐな思いを語った武知さん。さっそく、市から提供された市章ステッカーを愛用のサーフボードに貼った。その姿はどこか誇らしげだった。大会には必ず阿南市のロゴマーク旗を持参する。「表彰台の一番高い所でそれを掲げ、阿南市をPRしたい」という。それを見たサーファーたちがこつこつとやってくる。「武知さんって阿南の人?」「いいねー!」。こんなメールの輪が広がることを夢みて、今日もまぶしい笑顔で海に出る。

ビーチに映える晴れやかな笑顔が印象的な武知さん。彼女がひとたび海に出ると、波を捉え、さつそうとサーフボードを操るサーファーになる。「自然を肌で感じられるのが一番の魅力。幾つものサーフポイントがある県南の海の中でも、辰巳海岸や蒲生田海岸はいい波が来るので大好き。」と笑顔で語る。

13歳で世界大会に初出場、以来、ガールズクラスの日本代表として4年連続出場の経験を持つ。プロに転向した高校3年時には、日本プロサーフィン連盟のルーキーオブザイヤーを受賞するなど、国内外で華々しい活躍をみせている。そんな武知さんに、市は「阿南ふるさと大使」を委嘱した。世界の海から阿南市の魅力を発信してもらおう。ふるさとの海をこよなく愛する武知さんとのハッピー＆ハッピーな連携が始まった。



徳島大学サーフィンクラブの皆さん。言葉や文化の違いはあるけれど、波に乗ればみんな笑顔になれる。エンジョイ・サーフィン! イエ〜!

阿南ふるさと大使が語る

ふるさと阿南 の魅力

5月25日、夢ホールで「阿南ふるさと大使」委嘱式が行われ、岩浅市長から4人の方々へ委嘱状が手渡されました。市制施行55周年記念シンポジウムでは、ふるさと阿南の魅力を大いに語っていただきました。今後の抱負と併せてご紹介いたします。



落語家 笑福亭学光 さん

高齢者がいきいきとした生活を送れるような市になってほしい。そうすれば若者も安心して住むことができ、子どもたちもいきいきしてきます。それと、徳島県人でよかつたと思うことはやっぱり「阿波踊り」ですね。大阪でも人気が高く、阿波踊りがきっかけでいろいろな人となることがあり、徳島ならではの文化を継承してほしい。

私は「落語の楽しさを徳島に！」、「阿波踊りの楽しさを大阪に！」というスタンスで活動してきましたが、ふるさと大使を委嘱されてからは「阿南市の素晴らしさを県外に！」を加えて活動しています。講演会では、出身地を「徳島県阿南市羽ノ浦町：」と言っています。「阿南

市？徳島のどこ？」という方には「那賀川という川がありまして、その下流で数年前にアザラシのナカちゃんが見れたところ」と。しかしこのネタもあと数年。「〇〇といえば阿南！」とすぐに分かってもらえるようなものを皆さんと一緒に作りたい。もちろん、私がつくりたいのであればいいのですが…(笑)



作家 旺季志ずか さん

1つのことをブランド化するだけでも世間の評価が高まります。阿南市にある物や名勝地をブランド化して、阿南市の魅力を発信してほしいですね。ところで、日本最古の歴史書「古事記」の冒頭を飾る「国生み神話」の舞台が阿波の国で、その始まりが阿南市長生町ではないかという説があります。

読解する人によって意見はさまざまですが、この説で研究されている方がたくさんいることにロマンを感じています。私もさまざまな地域を舞台にドラマの脚本を書いています。今度のは「国生み神話」の説をもとに「八銚神社殺人事件」みたいなドラマを書いてみようかなって思っています。(笑)

ふるさと大使に任命されて初めての夏。東京でもあちこちで阿波踊りのお囃子が聞こえる季節になりました。それを聞いたときに、気候も人情も「あついで！」阿南を思い出します。映画と、自分の著書の執筆に追われながら、冗談ではなく、阿南を舞台にした小説を書けたらいいなと夢んでいます。



元プロ野球選手 水野雄仁 さん

山、海、川の大自然も魅力的ですが、私はやっぱり「光」ですね。仕事で各地を訪れますが、阿南ほど明るい田舎はないと思います。東京ドームでも光のイベントは人気で、毎年たくさんの人々が訪れています。光は人を集める不思議な魅力があります。阿南市に高速道路がつながる頃には、誰もが訪れたがるよ

うな、そんな光のまちになってほしいです。それと、子どもが増えて元気のあるまちになってほしいと思います。最近、地元のことを知らない子が増えているようです。アナウンサーや弁護士、医師、野球選手、サッカー選手などいろいろな職種の人を集めて「夢の課外授業」を行っています。

子どもたちが好きな講師を選んで授業をする。こうした手法も参考にしてみたいかがでしょうか。阿南市の良さは、地元の方より私たちが外に出ていく人の方が意外とわかるもの。孟宗竹、かまだ岬温泉、野球のまちなど、魅力的な地域資源はたくさんありますよ。



俳人 大高 翔 さん

田畑、川、幾重にも重なる山々、誰もが懐かしと思うような日本の原風景が阿南にはあります。光や野球といった「変わる」と、自然の「変わらないこと」の両方を伸ばせたらいいなと思います。私が非常勤講師を務める京都造形芸術大学東京キャンパスでは、名物講師陣による「ふるさ

とという最前線」という人気授業があり、素晴らしい地方の取組が紹介されています。いつか阿南市が紹介されたらな、と思います。ふるさとがほしいという人もたくさんいます。そういう人たちにもまちづくりに参加できる場があれば、私たちが気にかけている阿南市の魅力を発見してくれるかもしれません。

12歳までを過ごした阿南市より委嘱いただいた「阿南ふるさと大使」を、たいへん光栄に感じ、背筋を正しています。ふるさととは今も、わたしを支えてくれる、育みつけてくれています。これからは、少しでも恩返しができるよう、精一杯努めてまいります。阿南の良さを多くの方に伝えたいと思います。